

FAQ (研究助成) ※ビジョナリーリサーチ助成を除く

【応募について】

1.	Q :	同一年度複数の応募は可能ですか？(医学系研究奨励と生命科学助成など)
	A :	<u>全ての助成プログラムを通して、同一年度1研究者1件</u> としております。
2.	Q :	推薦者が別であれば、同じ部門から同じプログラムに2名以上応募できますか？
	A :	応募できません。 <u>1部門(教室、グループ等を含む)からは、同一プログラム1名の応募</u> と考えております。 <u>別の助成プログラムであれば応募可能</u> です。(なお、医学系研究奨励は5分野に分かれています、1つのプログラムとして取り扱います)
3.	Q :	昨年度に研究助成贈呈対象となった研究者が所属する科から、別の研究者が本年度に応募することは可能ですか？
	A :	贈呈対象となった研究および類似のテーマでの応募はご遠慮ください。 <u>昨年の贈呈対象研究と異なった研究内容・テーマについてはご応募可能です。</u>
4.	Q :	現在留学中ですが、 <u>海外からの応募</u> はできますか？
	A :	ご遠慮ください。本年度中に日本に帰国し国内で研究されるケースなど応募いただける場合もありますので当財団事務局に相談ください。
5.	Q :	<u>非常勤講師</u> ですが、 <u>応募は可能ですか？</u>
	A :	<u>ご所属先にご在籍であること、所属長からの推薦が得られること、採択された場合に助成金・奨励金を受け入れる仕組みがご所属機関にあることをいづれも満たしていましたら、ご応募は可能です。</u>
6.	Q :	<u>特定研究助成の代表申請者</u> となっていますが、他のプログラムへの応募は可能ですか？
	A :	<u>異なる研究テーマでしたら他のプログラムへのご応募は可能</u> です。
7.	Q :	<u>特定研究助成</u> での1機関とは、大学、センター、研究所それぞれを1機関と考えて良いでしょうか？
	A :	<u>大学全体として1機関</u> です。推薦者(所属機関長)は総長・学長とお考えください。
8.	Q :	特定研究助成の応募資格で、研究機関が総力をあげて取り組む共同研究とありますが、1研究室での応募は可能でしょうか？
	A :	学内または複数研究機関による融合研究を考えております。例えば、同一大学内での基礎教室と臨床教室の共同研究、複数大学の共同研究、大学と関連機関での共同研究などを想定しています。
9.	Q :	<u>工学部に所属し、医学領域における基礎研究に携わっています。</u> 医学系研

		究奨励へのご応募は可能ですか？
	A :	研究内容が医学系であればご応募は可能です。
10.	Q :	医学部に所属していますが、生命科学研究助成への応募は可能ですか？
	A :	ご応募は可能です。
11.	Q :	医学部に所属していますがライフサイエンス研究奨励に応募できますか？
	A :	ライフサイエンス研究奨励は、医学・歯学・薬学部卒業の方ならびにご所属施設が医・歯・薬学系の方の応募はご遠慮ください。
12.	Q :	歯学部に所属しています。個人としてどのプログラムに応募可能ですか？
	A :	生命科学研究助成、医学系研究奨励、ビジョナリーリサーチ助成のいずれかにご応募が可能です。
13.	Q :	医学系研究奨励への応募を考えています。臨床部門に所属していますが、基礎研究で応募する場合、医学系研究奨励の「臨床」に応募できますか？
	A :	研究課題の内容でご判断願います。研究課題の内容が基礎である場合は「基礎」へご応募ください。
14.	Q :	武田報彰医学研究助成の応募要領等が HP に掲載されていませんが、どこで入手できますか？
	A :	武田報彰医学研究助成は、当財団の理事、評議員等による 推薦制 の助成プログラムです。応募書類一式は推薦者にお届けしております。

【推薦者について】

1.	Q :	大学教授ですが、所属部門の長（所属長）として、誰の推薦が必要ですか？
	A :	大学教授の所属部門の長は組織によって異なりますが、研究科長、学部長、学長等のご推薦を想定しております。
2.	Q :	准教授ですが、誰に推薦してもらえばよいでしょうか？
	A :	所属部門の長である教授の推薦と考えております。 (講師、助教、医員の方も同様)
3.	Q :	1 推薦者が推薦できる候補は 1 件のみですか？
	A :	1 助成プログラムにつき 1 件のみの推薦としております。異なるプログラムでしたら複数の候補者のご推薦が可能です。(例：医学系研究奨励 1 件、生命科学研究助成 1 件)。
4.	Q :	応募申込者が教授で年齢等の応募条件を満たす場合、自薦は可能ですか？
	A :	自薦はご遠慮願います。所属長の推薦が必要です。 なお、特定研究助成では、機関長が自薦することは出来ません。
5.	Q :	教授が研究科長、学部長、研究所長、病院長などを兼務している場合は、2 件の候補者を推薦できますか？

	A :	できません。1 助成プログラムに 1 件のみの推薦とさせていただきます。2 件以上推薦された場合は、 <u>受付順位の早い候補 1 件を受け付けます。</u>
6.	Q :	医学系研究奨励のがん領域、精神・神経・脳領域、感染症、基礎、臨床の各々に推薦することは可能ですか？
	A :	医学系研究奨励として 1 つの助成プログラムと考えていますので 5 分野のなかで 1 件しか推薦できません。
7.	Q :	講座の教授が空席の場合は准教授の推薦で良いでしょうか？
	A :	准教授のご推薦で結構です。

【記載内容等について】

1.	Q :	所属の記載は大学院医学系研究科で良いですか？
	A :	大学院医学研究科代謝内科学、消化器外科学など詳細にご記載願います。推薦者の所属も同様に詳細にご記載ください。
2.	Q :	医学系研究奨励では研究要旨の記載は 4 ページ以内となっておりますが 5 ページになっても良いですか？
	A :	4 ページ以内でご記載ください（ページ数を超過している場合は、不備となります）。
3.	Q :	主な共同研究者は記載する必要がありますか？
	A :	必要な場合のみご記載ください。ただし特定研究助成はご記載が必須です。
4.	Q :	共同研究者の論文も文献として記載する必要がありますか？
	A :	特定研究助成以外の研究助成は、ご記載は不要です。
5.	Q :	共同研究者には年齢等の応募資格に準じるような制限はありますか？
	A :	共同研究者に制限は特にございませぬ。
6.	Q :	研究要旨に図表を入れても良いでしょうか？
	A :	必要であれば挿入していただいて結構です。

【電子申請について】

1.	Q :	E メールで申請することはできますか？
	A :	できません。電子申請にて申請してください。
2.	Q :	推薦書の押印はどうすれば良いでしょうか？
	A :	押印の後、PDF 化したファイルを添付してください。
3.	Q :	応募締切は 4 月 4 日の何時までですか？
	A :	4 月 4 日 24 時まで受け付けます。

【助成金について】

1.	Q :	所属施設では 10%の間接経費 (いわゆるオーバーヘッド) を徴収されます。助成金を個人で受け取れませんか？
	A :	施設に受入ルールがある先は全て施設での受入れとなります。
2.	Q :	いわゆるオーバーヘッドの免除に関する依頼の書類を財団から出してもらえますか？
	A :	理事長名で免除の依頼文書を作成することは可能です。なお、財団から免除のお願いをした場合でも、免除のご判断はご所属機関により異なります。各施設でのルールをご確認ください。
3.	Q :	現在、大学病院に所属して留学中です。収支報告に海外での研究費用が含まれても良いですか？
	A :	海外での研究費用も含み研究費の用途は自由です。ただし、 対象研究の研究費用であること、ご所属機関のルールに則っていることが条件です。
4.	Q :	他大学に転出することになりましたが、助成金を移すことは可能ですか？
	A :	現在ご在籍されている大学のルールに従ってご対応ください。また、助成金を移された場合は当財団にご報告願います。
5.	Q :	医学系研究奨励の助成金は研究成果を報告する 2020 年 5 月末までに完了する必要がありますか？
	A :	2020 年 5 月末までに使い切る必要はありません。 使用期限は特に定めておりません。
6.	Q :	特定研究助成の助成金は申込機関として一括管理する必要がありますか？
	A :	応募申込代表者の機関で一括受入および管理をお願いします。他施設への分担が必要な場合は代表機関から分担してください。
7.	Q :	助成金を人件費に使用することは可能でしょうか？
	A :	財団では 用途を特に制限しておりません。対象研究に限ってのご使用であること、ならびに施設のルールに則って使用いただくこと としております。
8.	Q :	助成金はいつから使用できますか？
	A :	納付次第使用できます。

【報告について】

1.	Q :	各研究助成金・研究奨励金に採択された場合は 2020 年 5 月までに研究経過または研究成果と収支報告を提出するとのことですが、規定の様式はありますか？
	A :	様式は特に定めておりません。A4 用紙 2～3 ページでとりまとめたいただければ結構です。成果を論文として発表された場合は、別刷または

		PDFをお送りください。報告書の代替といたします。 収支報告書につきましては、ご所属機関の収支簿（受払簿、予算差引簿等）の写しをご提出ください。提出期限の時点で残金がある場合は、中間報告として研究経過報告書ならびに収支報告書をご提出ください。残金が0円となった時点で最終報告をお願いいたします。
2.	Q :	報告書は公表されますか？
	A :	公表論文以外を公表することはありません。

【その他】

1.	Q :	採択後に所属が変更になりました。何をご連絡すれば良いでしょうか。
	A :	採択年度、採択プログラム名、新しい所属名、連絡先等を当方までお知らせください。 (メールアドレス : info@takeda-sci.or.jp)

以上